

佳作

せみの羽か

山梨県 甲斐市立竜王北小学校二年 築野 圭友

七月二十九日のよる、おじいちゃんとおぼくの二人で、じしょうじの中にある木に、カブト虫をさがしに行きました。前の日のよる、カブト虫が六びきもとれた木だったので、今日もなんびきもとれるだろうと、わくわくしながらさがしたのですが、とれたのは二ひきでした。

「もうとれないなあ。」
と、おじいちゃんが言ったので、かえろうとすると、虫のようなものはっ見。さわってみると、うごきました。おじいちゃんに聞いてみると、

「それは、今からせみになるよう虫だよ。」
と、教えてくれました。

ぼくは、それをだいに、いえにもちかえることにしました。かえると中、せみのよう虫のせ中が、だんだんわれてきて、びっくりしました。いえについて、そのよう虫をあわてて、カーテンにつかせました。

ぼくは、このままかんさつしようと、きめました。せ中がわれた中から、見たこともない白いきれいなせみのあたまが出てきて、つぎに、さか立ちをしたような形になりました。時間で、三十分ぐらいだったと思います。ぼくは、みんなに知らせたくて、かぞくぜんいんをよびました。みんなせみを見て、

「きれいだね」

と、かんどうしてくれました。すると、さか立ちしていたせみが、おき上がり、しっぼがとび出しました。それは、ぼくのしっぼにいるせみの体とはちがって、羽がくしゃくしゃで小さく、

「このままでは、とべないよ。」
と、お父さんに言ったら、

「だんだんのびてくるよ」
と、教えてくれました。ぼくは、ますます見たくなり、じっと見ていると、羽がだんだんのびてきました。そこで、なにせみか気になったので、図かんでしらべました。はっきりはしないのですが、羽が、とう明でないことと、大きなせみなので、あぶらぜみではないかと思いました。それから、このことを、「羽か」というのだとわかりました。

じ書でしらべてみると、羽かとは、こん虫のさなぎ、よう虫などが、せい虫になって、羽がはえることだということでした。あの茶色いせみも、こんなにきれいな白色の時もあることに、びっくりしました。

それと、せみもこんなにカづよくがんばっているのを見て、ぼくも、なんだか元気をもらった気がしました。

つぎの朝、りっぱなあぶらぜみがとび立ちました。